

宿縁

四月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL〇四七―三七二―〇二九一
FAX〇四七―三七二―〇二六一

あと何年生きられるか
これが一番危険です



本屋さんをのぞくと、今どんなことが話題になっているのか、またどんなことに関心をもたれているのかがわかります。
最近やたらと目につくようになったのが「長寿時代」とか「人生百年時代の生き方」といった言葉です。
ベストセラーとなった『LIFE―100年時代の人生戦略』著者のリンダ・グラットン女史はイギリスロンドンビジネススクール教授で、「人生100年時代」という言葉を提唱し、私たちは、今後どう生きてい

ばいいのだろうか、を聞いています。
この本によると、日本が一番早く人生100年時代を迎えるという。2007年に生まれた日本人は、107歳まで生きる確率が50%あると試算されているそうです。100歳を生きることになる私たちは、もはやこれまでの、20歳までの教育期間、20歳から60歳までの就労期間、それ以降の退職期間という人生設計はもうできないと話しています。
少し前に、作家の五木寛之氏はヒンドウ教の四時期の発達段階を人生設計のヒントにしてみることを提唱していました。すなわち「①学生期（がくしょうき）②人生を生きていくための準備期間。③家住期（かじゅうき）④社会や家庭や仕事において自己の能力を発揮し、個人的成長を続ける、任務と責任の時期。⑤林住期（りんじゅうき）⑥内面的な探究・洞察の時期。⑦遊行期（ゆぎょうき）⑧人生と自己について、過去のどの時期よりも理解を深めた状態。林住期に学んだことを明らかにし、他者に還元していく。というものです。
時代は変化し続けていますからどの道を選択するか、絶えず課題をかかえながら生きるのが人生というものでしょう。まもなく平成の時代から次の時代に移りますが、どのような寿命にあらうとも日々の据わりをどこに置くかが肝要です。人生設計は大切

なことではありませんが、わが命は瞬時のものです。必ず死の時を迎えます。やりたいことが未だあったのに！もうちよつと待つて！は通用しません。
さあ日々の据わり（人生を貫く確かなもの）を見出すには良き人との出会いと導きです。そして何よりも仏法を聞く道に立つという事です。
大分県在住の医師田畑正久先生は当寺にも何度か法縁をいただきましたが、その手記で、仏教の師、細川巖師（福岡教育大学で化学の名誉教授）の「世間の仕事は余力を残してやめなさい。後生の一大事の問題が解決せずして人生を終わると勿体ない」という言葉に背中を押されて五十五歳の時、国東市民病院の院長を退職したそうです。今は医療に携わりながら「老病死をどう受けとめるか」の活動に注力し、医療と仏教の協力関係の構築を目指して幅広く活躍しておられます。
先生は一昨年の夏にご両親の五十回忌を迎えるにあたって、ご自身の聞法のため、そしてご縁のある方々にも仏縁を深めていただきたい、それに日ごろ仏法に縁の少ない弟、妹が聞法に関心をもってくるとよいのにとの願いで「聞法の集い」の法要とされました。先生の生まれは門徒の家庭でしたが、科学の進歩する時代に、仏教の役割はもう終わっているという偏見を青年時代には持つていました。大学入学後、一年生の夏にご両親（当時父四十五歳、母三十八歳）が交通事故で亡くなりました。田植え作業終了後の骨休めに友人夫婦と四人でやまなみハイウェイのドライブの帰り、四人とも全員死亡したそうです。残された家族は「自分、弟妹の四

人で、弟が中学三年生、妹たちは小学校六年生と三年生だったそうです。
人間はこうした縁を「後生の一大事」へと転換するのか、身の不幸と嘆き災いを恨んでいく方向に向かうのかを迫られます。
世間の道ばかりを追っていて聞法にご縁がない人は、「私ほど不幸な目に遭った人はいない」、「あんな目にさえ遭わなかったら」と愚痴に終始します。
「後生（ごしよう）の一大事」とは、自らが生死の問題を解決してゆるぎない世界を目指すことが人生の最重要事ということです。蓮如上人は「たれの人もはやく後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏をふかくたのみまひらせて」（御文章）と、それを仏縁と思つて仏法に遇い人生の据わりを見出せと申されました。
浄土真宗にあつては、聞法を通じて阿弥陀さんという仏さまに遇うことです。遇わなければ「たのむ」世界はでてまいりません。
一、仏様とはどんな人であるか。「我は南無阿弥陀仏であると名のつておいでになります。」
二、仏様はどこに居なさるか。「仏様を念ずる人の前においでになります。」
三、念ずるにはどのような方法がありますか。「仏たすけましますと念じます。だれでも、どこでも、いつでもたやすく仏を念ずることが出来ます。」
右の言葉は学僧曾我量深先生の言葉です。世間の知力、能力から入ろうとすれば道の前で誰もがたじろぐでしょう。仏法はまさに異質な世界ですから、異質なものに触れるとき、私の在り様がより鮮明に知らされます。

【寺灯雑記】

○スリランカへ行ってー藤井京子ー
3/4〜9

私は3年前娘を亡くしました。その時はこれから自分は何をしたらいいのか何も考えられずただ父が通っている中原寺について行きました。それから仏教など全くわからなかった私は少しずつ興味を持ち始めました。手塚治虫の「ブツダ」を読み、ブツダが訪れた伝説のスリランカに行ってみたいと思いい今回の旅行に参加しました。

3月4日、11時20分成田を経ち、大よそ9時間のフライトで時差3時間半現地時間17時50分にコロomboに着きました。

3月5日、スリランカに初めて仏教が伝えられたミヒンダに行きました。まずは難関岩山登り(インビテーシヨンロック)からスタートしました。聖域の為靴と帽子をとり気温も30度近くあり岩肌や手摺りがチリチリと熱い中必死に登りました。でも頂上から見る景色は緑豊かな森が続く絶景でした。次にスリランカ最古の都アヌラダブラへ行きました。スリマハ菩提樹はブツダが悟りを開いた菩提樹の分け木であり、イスラムニア精舎には巨大な涅槃像があり又2000年以上も前に作られたとは思えない程精巧な岩の彫刻がありました。3月6日、まず、アウカナブツダに行きました。スリランカ5大仏像の一つで大変大きく1600年前に建てられた古い物ですが精巧で美しい物でした。次にこの日も超難関の岩山登りシギリヤロックへ行きました。ここはジャングルの中に岩山がありその頂上に王宮の跡地があります。権力により気が狂った王とそれに仕えて宮殿

を建てた人達の辛い歴史を感じました。

そこには「シギリアレディ」の壁画があり1400年の年月が経っているにも関わらず鮮やかに美しい優しい女性の絵が残っていました。3月7日、スリランカ最大の石窟寺院タンブラに行きました。沢山の仏像とブツダの生涯が描かれている壁画があり、悟りを開いた絵は感慨深く吸い込まれていく感じがしました。ボロンナルワのクワドラングルも沢山の石で造られた建物や仏像がありどれも精巧に彫られた花や動物や文字が残っており、何段もある狭い細い階段を昔の人は裸足でお念仏を唱えながら登ったり降りたりしていたんだなど修行の厳しさを感じました。3月8日、この日はキャンデイの市内観光予定でしたがイスラム教徒と仏教徒がぶつかり合い死者も出て戒厳令が出されました。この様な宗教同士の争い事は早くなくなって欲しいです。

仏歯寺のみの観光でした。仏歯寺はブツダの歯が奉納されておりこの本堂で花を供え皆でお経をあげました。身の縮まる思いがしました。このお寺も壁や梁にすばらしい彫刻や絵があり特に仏教の歴史の絵はわかりやすく印象的でした。3月9日、最終日ケラニア寺院、サママハヴィハラヤ(平和寺)に行きました。平和寺は西本願寺布教使松林浄容さんが日本の文化を広めようとボランティア活動をしておられます。幼稚園があり学校があり日本語の本がおいてある図書館もありました。小さな子供たちが僧侶になるために勉強していました。スリランカと日本のつながりがあり、そこで学んでいる子供たちも大人になりいろ

いろな国につなげ伝えていく。仏教も紀元前から今日まで信仰深い人たちが守り繋がり伝えていき、何も知らない私にも娘を通じてつながってきました。何か大きいけれど温かいものを感じました。貴重な体験をさせていただきありがとうございます。

○宿縁廟納骨と彼岸会法要を営む

3/21

あいにく朝から冷たい雨の中にも拘わらず、大勢の参詣者とともに春の彼岸会法要が勤められました。宿縁廟入廟者の法要焼香は本堂内となりましたが、引き続き営まれた彼岸会法要では厳かに仏説阿弥陀経の唱和が堂内に響きわたりました。また高見沢孝之師は「生死の苦海ほとりなし」と題し、ご自身の仏法へ導かれた味わいをお話してくださいました。

○教区仏婦結成60周年に参加して

3/27

ー山本由美子ー

「つなげよう豊かな心とみ法の輪」のテーマのもと、東京教区の仏教婦人会連盟結成60周年記念大会が横浜の国立大ホールに1600名の参加者を得て開催しました。

○お仏具磨き、清掃奉仕

3/27

五月五日(土) 十時

○婦人会趣味講座

60年の歩みの記念映像の後、中原寺でも何度かお招きした武蔵野大学教授のケネス田中師による「慈悲のご縁をキャッチしよう」の題でパネルを使つての講演でした。今、仏教はアメリカを始めフランス等世界にも広まりつつあると紹介されました。先生は「聴聞・求道に励んでいるという事が阿弥陀さまのサークルの中にあるという証しであると味わう事が出来、そう感じられる私がつまり

(折り紙で作る金魚のモビール)
五月五日(土) 一時

○グランドゴルフ(立身台公園)

当寺からは前坊守以下14名が参加。

五月九日(水) 正午お寺集合

【四月の掲示板のことば】

他人と比べるのをやめると

ずつとらしくなる

慈悲のご縁をキャッチしたと受け止める事である」と話されました。

休憩をはさんで、次はシンガーソングライターで奈良県教恩寺住職のやなせなさんの講演でした。ご自分の体験を通しての心にひびくお話と美しいメロディー、澄んだ歌声は私達の心にしみわたり、心打たれるひとときでした。

【法座・行事の案内】

○花まつり(お釈迦さまのお誕生日)
四月一日(日) 十一時より

○子育てサロン
四月九日(月) 十一時〜二時

○入門式
四月二十二日(日) 十時

○常例法座(講師ー熊原博文師)
四月二十二日(日) 一時

○門信徒会役員会
四月二十二日(日) 三時半

○和讃に学ぶ(正像末和讃)
四月二十七日(金) 三時

○お仏具磨き、清掃奉仕
五月五日(土) 十時

○婦人会趣味講座
(折り紙で作る金魚のモビール)
五月五日(土) 一時

○グランドゴルフ(立身台公園)
五月九日(水) 正午お寺集合

【四月の掲示板のことば】

他人と比べるのをやめると

ずつとらしくなる